

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		諏訪竜一	所 属	農学部	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のニーズに見合う知識を有することのできる講義を行う ・講義分野を学生が他人に教えることができるような理解しやすい講義を行う ・農作物を自ら作り、食し、食事に対する理解を深める教育を行う。 		0.35	作物学、エネルギー作物学など、社会のニーズに沿った講義内容を充実させた講義を行った。また、講義は基礎から応用まで、体系的に組み合わせた。熱帯作物学実験では、植物栽培の適正化のためのデータ取得方法を教授するために用いる食用作物の栽培を通じて理論と並行して食に対する教育も行った。	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度から四年間を予定として始まる科学研究費補助金(基盤研究C)研究代表者として、プロジェクトの推進を分担研究者とともにに行い、次年度以降の土台を築く。 ・他研究室と積極的に交流を行い情報を共有し、本大学の研究成果の向上に努めるとともに相互の研究室のレベルアップに努める ・沖縄県の地域に貢献する研究課題を遂行する 		0.40	プロジェクトに関連する植物体を北部酸性圃場への大規模の植え付けを完了した。本研究の遂行にあたり、与那フィールドセンター、造林学研究室など多くの研究室と連携して行った。また、他研究室との共同研究も実践し、成果を残した。また、沖縄県の在来大豆などの研究を活発に推進し、今後、さらに研究を推進してゆくための基礎的なデータの取得を完了した。	
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・国際貢献としての具体的取組(JICA研修等) ・沖縄農業研究会等の地域の農業を担う研究会の運営を行う 		0.10	JICA研修員に対してエネルギー作物に関する講義および実験指導を行った。また、彼らに対して、一週間にわたる国内研修の組立を行い、引率をし、適時各施設中での解説などを行った。また、沖縄農業研究会や、各種委員会に参画し、沖縄県の地域活性化のために意見などを述べた。	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長等の管理職の加重的負担を軽減するため、できることは協力し学科の動きを軽敏にし、研究活動の活発化に努める ・分担している各種委員会の活動を行う。 		0.10	学科長その他委員会の活動に対してできる限りの協力を行った。	
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次指導教員として就職活動に対する意識を認識させるよう取り組む ・就職活動を行う学生達の履歴書、エントリーシート、面接等に対する疑問に対して、研究に対する質問と同様に深いレベルで対応する 		0.05	就職活動に対するできる限りの対応を行った。また、最終学年の年次指導教員としての進路指導なども、十分に行い、充実した学生生活を送るための。	
				0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	田場聡		所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	
職 名	准教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	植物病理学実験(選択必修)では実験方法の把握だけでなく、デモンストレーションを行うとともにパワーポイントなどを用いて項目別に解説し理解を深めさせる。植物線虫学では研究室で得られた最新のデータを多くの写真や動画で紹介し、当該研究分野に対する興味と理解を高める。植物病理学特論では、亜熱帯性病害について各病原体の最新の診断および防除法について紹介し、現場に即した研究を題材に議論し、実学的な研究について考察する。熱帯植物病理学特論では、沖縄で問題となる課題についてゼミ形式で授業を行い、当該分野の専門的知識を深めさせる。植物病理学研究室の学生に対しては論理的思考能力およびアピール能力の開発を目的としたゼミナールを週1回(2人)行う。	0.30	植物病理学実験ではパワーポイントにより写真や図を駆使して解説した結果、学生の理解が深まった。植物線虫学では動画およびDVDを用いたことで学生の興味を向上できた。また理解度を高めるためレポートを課した結果、成績が向上した。英語文献講読Ⅱではニュース英語(科学)を教材に用いたため学習意欲を向上できた。また関連内容に関する情報収集により自然科学関連の情報量が向上した。研究室ゼミでは論文を講読してパワーポイントで発表後、ディスカッションを行い、学部3年次から修士課程の学生を含む計7名の能力向上を図った。今後も継続し、問題点あれば改善を行う。植物病理学特論では、果樹病害と線虫病について実学的な内容(検定法や防除法)の講義により応用研究の重要性が理解できた。熱帯植物病理学特論により問題意識を持って課題に取り組む自発性と解決力の向上に寄与できた。農学研究の最前線では、有害線虫の最新の環境配慮型防除法を紹介し食の安全・安心に対する興味を向上できた。ゼミナールにより論理的な考察力と自己アピールの向上が実現できた。	
研究	0.35	国内の和文誌、英文誌または外国誌に論文を投稿し受理を目指す。日本植物病理学会、日本線虫学会、沖縄農業研究会などにおいて発表を行う。これまで競争的資金などで採択された研究課題や特許を発展させ、外部資金を獲得し、関連企業との共同研究をさらに推進することで実社会に応用できる技術の研究開発に努める。国際特許出願1件および国内特許出願1件を予定している。今後、これらの特許をもとに研究資金獲得を目指す。	0.35	日本植物病理学会報に2報、熱帯農業研究に2報受理または掲載された。現在は国内誌(Nematological research:英文)を1報投稿中である。沖縄農業研究会に2課題発表を行った。県外企業との共同研究成果の特許出願を予定している。また現在、県外企業1社と共同研究を行っている他、1社と秘密保持契約を結び共同研究を検討している。さらに県外企業1社と線虫製剤を開発し、現在、試験販売を継続中である。その他、松枯れ病の防除報に関する特許の審査請求を行った。日本雑草学会論文賞を受賞した。	
社会貢献	0.15	セミナーや研究会に積極的に参加・発言し、県内で行われる病害虫関連の研究や産官学連携推進に尽力する。国内で開催される講演会などで講演を行う。現在、日本線虫学会の特別講演を予定している。	0.15	沖縄農業研究会が開催する50周年記念シンポジウムで講演を行った。また、アグリビジネス創出フェア2013ではパネル発表を行い、有害線虫関連の共同研究および商品開発の宣伝を行った。さらに日本線虫学会において特別講演を行った。	
管理運営	0.10	風樹館運営委員会、発明審査委員会および代議委員会などの学内委員会やTLO事業ネットワーク委員会などの外部委員活動に積極的に参加する。	0.10	出張などにより完全な出席はできていないが、90%以上の出席率で貢献を行った。特に発明審査委員会では琉球大学の知材率の向上に尽力した。	
進路指導	0.10	学生の積極的な学会参加を促し、修士および博士課程への進学率を高める。また就職の場合は、生物系および農学系関連企業の紹介などに積極的に取り組む。	0.10	4年次1名が沖縄農業研究会においてパネル発表を行った。積極的に修士課程への進学を促した結果、4年次1名が修士課程に進学予定である。就職関連では4年次1名が県内企業に就職が決定し、1名が沖縄県農業研究センターの非常勤職員として採用予定である。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)									
名 前		建 本 秀 樹		所 属	農学部・亜熱帯農林環境科学科		職 名	教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果			
教育	0.35	前年度の授業評価アンケート結果によると、これまでの授業改善効果により、私の授業はますますの高評価を得ているようである。そこで、本年度は、FD委員会主催による公開授業で得たノウハウを基に学生との距離を縮めた対話型の講義スタイルを更に推し進め学生の理解力への向上心を刺激するよう心掛ける。また、TAと共に、卒論研究時に生かせるような実践的な演習や実習を実施する。			0.35	学生に対して問題を提議しながら進めていく講義スタイルにより、学生参加型の有意義な講義が実施できた。そして、講義にLINEを導入し、学生からの質問等を常時受け付けられる双方向の体勢を確保した。また、ゼミにおいては、学生の英文読解力向上に重点を置き実施した。これらの効果は、学生による授業評価アンケートの結果からも好評価を得ていると推測される。			
研究	0.40	大学院の学生等と国際学術雑誌への2報以上の研究論文の採択と共に、関連学会での2演題以上の学術発表を目指す。また、科研費等の外部資金を獲得し、関連機関との共同研究を継続し、地域に貢献できる研究成果の達成に努める。さらに、昨年度に続いて日本暖地畜産学会の編集幹事としてJ-STAGEへの電子ジャーナル化作業を担い実施する。			0.35	外国雑誌に3報の学術論文が掲載された。一方、日本暖地畜産学会での編集幹事としての電子ジャーナル化作業や大会プログラム作成等の職務を無事に果たした。また、平成24年度からの科研費を継続し、琉球在来豚アグー精子の凍結保存に関する研究を実施している。			
社会貢献	0.10	沖縄県が主催している「沖縄県アグーブランド豚推進協議会」に学術委員として出席し、今後の沖縄県養豚産業の活性化を図る。また、関連企業や県内高校からの問い合わせ等に積極的に応じ、要望があれば出前講座等を実施したい。さらに、「アグー保存会」との連携をさらに深め、純系アグーの保存の為に学術的ならびに技術的な両面から貢献する。			0.10	沖縄県の「おきなわアグーブランド豚推進協議会」に学術委員として出席し、今後のアグーを活用したブランド豚事業に関して積極的な発言を行った。また、沖縄県立北部農林高等学校が中心となっている「アグー保存会」との事業展開の一環として、純系アグーの維持・管理の指導、ならびにブランド豚チャーグーの生産に研究協力を行った。さらに、中部農林高校において出前講義を行った。			
管理運営	0.10	代議員会、危機管理委員会等の各種委員会活動に積極的に参加すると共に、学科会議や教授会等の会議への出席率を80%以上にする。そして、学科や学部の運営に貢献する。			0.10	今年度は、学科会議、学部教授会および研究科委員会に95%以上の割合で出席し、担当した各種委員会では積極的に発言を行った。また、代議員として学部代議会に出席し、さらに、コース長としてコースの取りまとめ等を行い十分に責務を果たせたと思う。			
進路指導	0.05	今年度は、研究室に配属された学生のうち、3年次までの取得単位数が少ない学生が数名いる為、学生の教育指導、進学指導ならびに就職の斡旋を積極的に行うと共に、特に、今年度も100%の卒業率を目指す。また、就職に関しては、研究の関係上、不妊治療機関での胚操作技師の求人情報を学生に紹介したい。また、大学院への進学率向上にも貢献したい。さらに、3年次生のチューターとして他の3名のチューターと協力して、3年次学生の実生活・進路指導を積極的に行う。			0.10	3年次指導教員であったためか、特に、今年度は、自分の研究室の学生だけに限らず、他の研究室を含めた3年次生の進路相談等を受ける機会が非常に多かった。その中で学生からの問い合わせに対して積極的に応じ、的確な進路指導が出来たと思われる。その結果、スキルアップのための語学留学、ならびに大学院への進学希望等の前向きに自己啓発をしながら成長しようとする学生を育てることが出来た。			
	0.00				0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	井上 章二		所 属	農学部	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	学部においては前学期:森林水文学、森林環境学、外国文献講読Ⅰおよび卒業論文Ⅰなど、後学期:森林土木学、森林工学演習実習、流域・森林保全学、森林科学実習、森林測量学、森林測量学実習、卒業論文Ⅱなど、研究科においては森林環境工学特論、亜熱帯農学特別演習、プレゼンテーション演習等の授業をシラバスに則って行う。それぞれの科目において、前年度の学生の意見や自らの反省を活かした授業の改善を心掛ける。大学院国際農学プログラムにおいてはスムーズかつ効果的に実施できるようコーディネートを行う。また、連大関連では留学生1名の主指導教員として、他の留学生1名の副指導教員として指導を行う。研究室の学生、院生に対しては週1~2回のゼミを確保し、修士学生1名、卒論学生4名を指導する。	0.30	学部、研究科すべての授業に対してシラバス通りの実施に努めるなど全力投入したが、後学期は授業数が多く、一部行き届かなかった面もあると思われる。しかし、休講も最低限であり、補講の実施等も含め及第点であると自己採点できる。研究室ゼミも週最低1回は確保し、研究室在籍の8名の4年次学生の卒論を直接的、間接的に指導した。連大の授業、学生指導に関してもほぼ及第点と言える。	
研究	0.20	東日本大震災を受けて海岸林の防災に関する研究を引き続き行い、総合地球環境学研究所との共同研究を進める。また、その研究成果を国内外のレフリー付き学術誌に投稿し採択を目指す。日本海岸林学会、日本雨水資源化システム学会での研究発表を目指す。	0.15	海岸林学会(岩手)において発表を行った。また、日本雨水資源化システム学会誌へ論文を投稿した。しかしながら、年間を通じての業務ウェイトが教育と管理運営において当初予定より膨張し、結果として研究に割けるウェイトが圧迫された。	
社会貢献	0.15	日本雨水資源化システム学会理事、日本海岸林学会評議員、森林利用学会理事の責務を引き続き果たす。内閣府沖縄総合事務局における入札監視委員会委員として適切な入札が行われるよう尽力するとともに、沖縄県森林緑地課および森林資源研究センター等との連携にも力を入れ、社会貢献に務める。	0.15	雨水資源化システム学会の評議員として、学会運営の責任を果たした。その他の2学会の役員としても責務を果たした。また、沖縄総合事務局の入札監視委員会委員長としての職責を果たした。沖縄県との連携推進については、具体化の面で若干積み残しがある。	
管理運営	0.30	全学的には教育研究評議会、利益相反マネジメント委員会、全学教育委員会、大学院委員会の委員としての責務を果たす。また、島嶼防災研究センターの併任教員としてセンターのスムーズな管理運営に努力する。農学部では、副学部長として学部長を補佐し、教育委員会および研究戦略会議では委員長としての務めを果たす。その他、代議会、将来計画委員会、自己評価委員会、人事委員会、中期目標・中期計画推進会議、FD委員会の委員としての責務を果たし、大学、学部の管理運営に努める。	0.30	当初から予定されていた委員の他、スーパーグローバル大学事業タスクフォース委員会委員をを拝命した。全学委員会、および各種学部委員会に出席または委員会を主催し、できる限りの時間を割いて大学、学部、学科の管理運営に努めた。	
進路指導	0.05	3年次学生にキャリア実習への積極的参加を呼びかける。3年次、4年次および大学院の学生に対して公務員試験や民間企業の求人等の情報(これまでに就職先開拓のために訪問した企業の情報を含む)を提供する。研究室の専攻生はもとより、その他の研究室、学科を問わず相談に訪れた学生に対し、より具体的な就職や進学に対するアドバイスをを行う。	0.10	キャリア実習に関しては学生の希望先と交渉し、4学生がキャリア実習を履修した。また、キャリア実習を希望する2年次学生に対して、特別授業を行い、心構え等を指導した。求人情報などは速やかに提供し、大学院への進学に関してもアドバイスをを行った。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松本 一穂	所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.35	授業では学生が基礎知識を十分に理解できるよう、配布資料をより分かりやすく工夫する。また、質疑応答や議論の機会を多く設け、学生が自ら思考する力を養うことのできる授業を目指す。授業内容に対する学生の要望等も積極的に聴取し、授業内容の改善に役立てる。卒業研究では計画立案から研究遂行、論文作成までをきめ細やかに指導しつつ、学生に主体的に取り組ませることで、学生の問題解決能力の向上を目指す。		0.40	授業では配布資料の内容を再検討し、関連分野の基礎知識を容易に理解できるよう工夫した。また、毎回学生から授業内容に関する意見や質問を聴取し、授業の改善に役立てた。実験では、調査テーマの検討から学生に参画させ、ディスカッションの場も多く設けるなど、学生の主体性を引き出すための取り組みを行った。卒業研究に対しても、学生とのディスカッションをベースに、学生の主体性を尊重しながら計画立案から研究遂行、論文作成まで、きめ細やかな指導を行った。	
研究	0.35	昨年度やんばるの森林に設置した観測タワーを利用し、亜熱帯林の生態系機能の解明に向けた調査研究を進める。また、マレーシアの熱帯雨林の生態系機能に関する調査も継続して行う。一方、これまで得られたデータの解析も進め、国際学術誌に1報以上の投稿を目指す。科学研究費補助金や民間の研究助成金にも積極的に応募する。		0.25	昨年度、与那フィールド内に設置した観測タワーにおいて、乱流変動観測機器を設置し、森林-大気間の水・熱交換量の連続観測を開始した。また、本観測データの初期解析結果について九州森林学会で口頭発表を行うとともに3月の日本森林学会でも口頭発表を行う予定である。海外調査も引き続き実施し、マレーシアの熱帯雨林では群落スケールの水・熱・炭素交換量の観測を行った。これらの成果は今後投稿論文化する予定である。なお、本年度は共著論文4本が国際学術誌に受理されている。	
社会貢献	0.10	沖縄県や同森林資源研究センターと連絡を密にとり、沖縄県の林業および環境政策の推進における諸課題について理解を深める。また、将来的にそれらの問題点に対して学術的立場から問題点の抽出や解決策が立案できるよう引き続き準備を進める。		0.10	沖縄県森林資源研究センターと密に情報交換を行いとともに、亜熱帯森林・林業研究会にも参加し、沖縄県の森林をめぐる諸課題について理解を深めた。また、南西諸島の持続可能な森林管理手法に関する沖縄県の委託研究事業について、森林総合研究所、鹿児島県等との共同研究事業体としてその推進に携わった。	
管理運営	0.10	教授会や学科会議に積極的に参加し、議論に加わるとともに、各種委員の仕事にも積極的に取り組むことで、農学部や亜熱帯農林環境科学科の管理運営に貢献する。		0.15	出張・研修時を除いて教授会と学科会議には積極的に参加し、農学部や亜熱帯農林環境科学科の運営体制の把握に努めた。また、教育委員や全学学士教育プログラム委員、一般入試監督者などを務め、積極的に大学や学部の管理運営に参画した。	
進路指導	0.10	進路に関する話し合いを多く持ち、それを基に学生の希望する進路について情報収集を行う。また、様々な大学研究者、公務員、会社員を通して、人事情報や採用情報を得て学生に提供する。研究者を目指す学生に対しては、卒業論文指導や大学院教育を通じて、早い段階から投稿論文を投稿できる体制を整えるなど、将来研究者として職が得られるよう、質の高い指導を行っていく。		0.10	学生との間で進路に関する話し合いの場を多く持ち、学生の希望進路の把握に努めるとともに必要な情報を提供した。また、次年度から研究室配属を希望する学部3年生に対しても、希望する進路を聴取し、就職活動と卒業研究遂行との両立などに関する相談に対応した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		辻 瑞樹	所 属		亜熱帯農林環境科学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果			
教育	0.20	担当科目を履修した学生の修得度向上にとくに力を入れる。講義では学生の集中力を持続させるべく授業プログラムを改善する。大学院修士の科目において統計学の演習を取り入れる。編集を共同で担当する辞典を年度内に刊行させる。		0.30	担当科目を履修した学生の修得度向上にとくに力を入れた。講義では学生の集中力を持続させるべく対話形式を導入。大学院修士の科目において統計学の演習を取り入れた。編集を共同で担当する行動生物学辞典が11月刊行された。			
研究	0.30	採択中の科研費基盤(B)海外と挑戦的萌芽研究等を計画どおり遂行する。Impact factor 3以上の雑誌への論文掲載を最低1つ目指す。		0.25	採択中の科研費基盤(B)海外と挑戦的萌芽研究等を計画どおり遂行する。Impact factor 3以上の雑誌へ4報掲載された(PNAS, Biol. Lett. PLoS ONE, PLoS ONE)。			
社会貢献	0.35	日本学術会議連携会員、学協会(生態学会将来計画委員長、国際社会性昆虫学会日本地区会長、ロンドン王立協会誌Biology Letters氏等の編集委員等)、沖縄県環境影響評価委員としての任務を遂行する。とくに申請した学術会議マスタープランの実現にむけ各方面に働きかける。学振、JST等の活動に依頼があれば協力する。		0.30	日本学術会議連携会員、学協会(生態学会将来計画委員長、国際社会性昆虫学会日本地区会長(JIUSI)、ロンドン王立協会誌Biology Letters氏等の編集委員等)、沖縄県環境影響評価委員としての任務を遂行した。とくに申請した学術会議マスタープランは採択。JIUSIでは若手海外渡航援助費用として2万ドルをIUSI本部から獲得、2014夏のケアンズ大会に参加する若手会員に配分した。			
管理運営	0.10	風樹館館長、各種委員としての任務を遂行する。とくに風樹館の大学博物館相当施設登録を受け、教育研究機能の充実を図る。		0.10	新年度の概算要求を計画中之である。10月には博物館長研修にも出席した。			
進路指導	0.05	3月末までに指導する4年次と修士2年全員の就職ないし進学の内定を目指す。学部2年次指導教員としてコース分けの調整を行う。		0.05	修士1名と学部2名が公務員試験(国家1種を含む)に合格し採択された。2年次のコース分けは難航したが最終的には調整できた。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		金城和俊		所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.35	学部担当科目(土壌環境科学、環境土壌学、土壌化学実験)と大学院担当科目(土壌環境科学特論)を担当し、学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、講義を行う。また共通教育担当科目の情報科学演習ではパソコンに関する一般的な利用方法について理解させる。講義は必要に応じてレポートを課し、さらにグループ学習も行う。				0.35	学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、土壌環境科学、環境土壌学および土壌肥科学実験を担当した。さらに大学院担当科目である、土壌学特論の講義も担当した。また、共通教育担当科目の情報科学演習ではパソコンに関する一般的な利用方法について講義を行った。担当講義において適宜レポートを課し、グループ学習も行い、講義へ積極的に参加させた。				
研究	0.35	2013年度日本土壌肥料学会(名古屋大会)と日本土壌肥料学会九州支部例会にて研究発表を行う。研究成果は日本土壌肥料学雑誌に約1報を投稿し、年度内の受理採択を目指す。また他分野の研究者と共同研究も積極的に行う。				0.35	2013年度の日本土壌肥料学会(名古屋大会)や日本土壌肥料学会九州支部例会にて研究発表を行った。共同研究を民間企業と行った。日本土壌肥料学雑誌に論文が1報、掲載された				
社会貢献	0.10	県内の他大学、県の研究機関や民間企業と常時、情報交換を行い、お互いの研究や業務に活かすことに努める。また、研究集会などを開催し、研究結果などを広く伝えるために努力する。				0.10	沖縄市農林水産課より、講演依頼を受け、1回行った。また、沖縄県家畜排水対策協議会にて耕畜連携推進部会の部会長に任命され、会議などの進行を行った。				
管理運営	0.10	教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努める。また、オープンキャンパスでは積極的に農学部をアピールし、センター試験の監督等を積極的に参加する。さらに割り当てられた委員の仕事を全うする。				0.10	教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努めた。オープンキャンパスでは研究室で体験実験を行い、高校生に研究について理解しやすいように説明を行った。センター試験監督と二次試験をはじめとする様々な管理運営に関する業務を積極的参加した。				
進路指導	0.10	学生の希望進路に関する相談を常に受け、その都度、情報提供を行い、学生の就職支援を怠らない。また関連企業に学生の就職に関する相談を行う。				0.10	就職試験に関わる履歴書作成の上で、添削やアドバイスをを行った。適宜、面接対策のために資料提供や面接の練習を行った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			